

# 貝藻くん NEWS

第8号 (2023年7月)



全国各地での貝藻くんの成果に関する最新事例を報告します。

## 貝藻くんと海藻種苗による藻場造成の取り組み ホンダワラ類 (鹿児島県三島村)

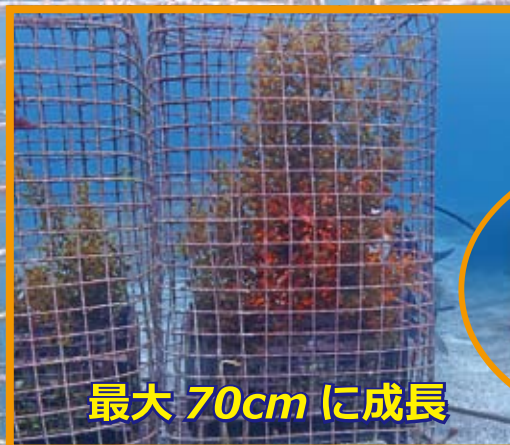
鹿児島県三島村では、2022年11月にホンダワラ類の種糸を取り付けた貝藻くん(防護ネット付き)を、島影の静穏な海底に設置しました。その5カ月後となる2023年4月に実施したモニタリングでは、ホンダワラ類が順調に生長している様子を確認することができました。今後は、貝藻くんで生長したホンダワラ類による、再生産が期待されます。



種糸の取り付け



種糸



最大 70cm に成長



調査状況

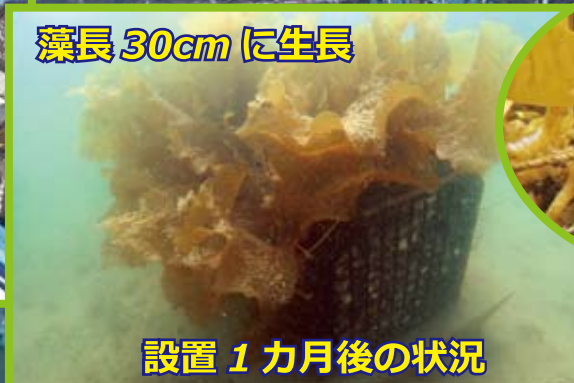
## ヒロメ (和歌山県太地町)

和歌山県太地町では、2022年から2年連続で、ヒロメの種苗を使用した藻場造成に取り組んでいます。2023年2月には種苗を取り付けた貝藻くんを設置、1カ月後の3月に実施したモニタリングでは、藻長30cmまで順調に生長している様子が観察されました。周囲にもヒロメの幼体の着生が確認されていたことから、今後の再生産による藻場の拡大が期待されます。



貝藻くんの設置

藻長 30cm に生長



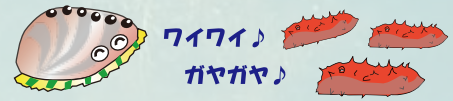
設置 1 カ月後の状況



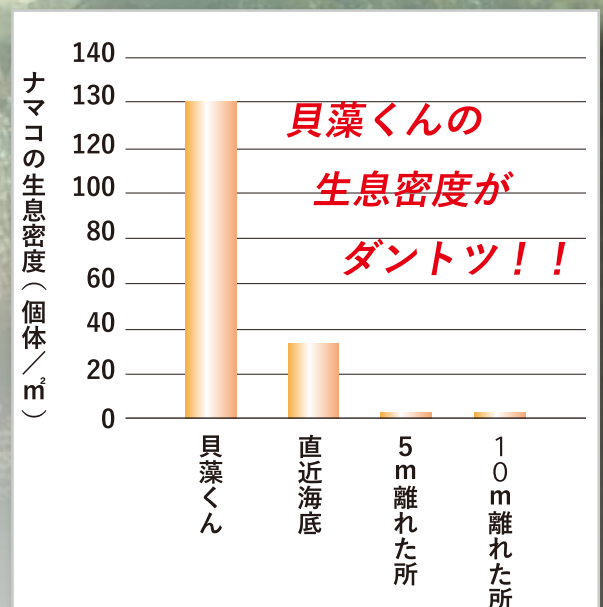
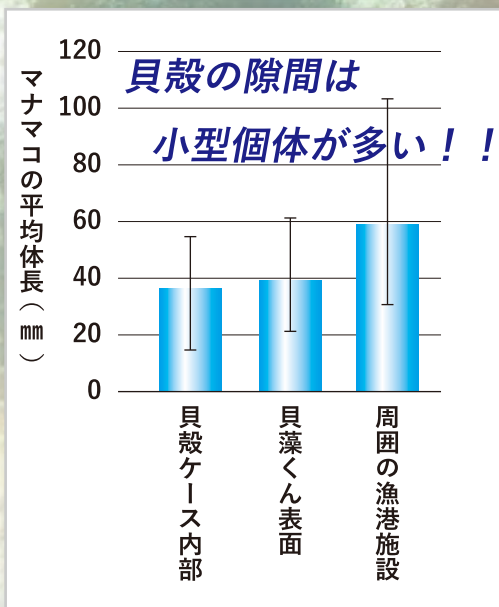
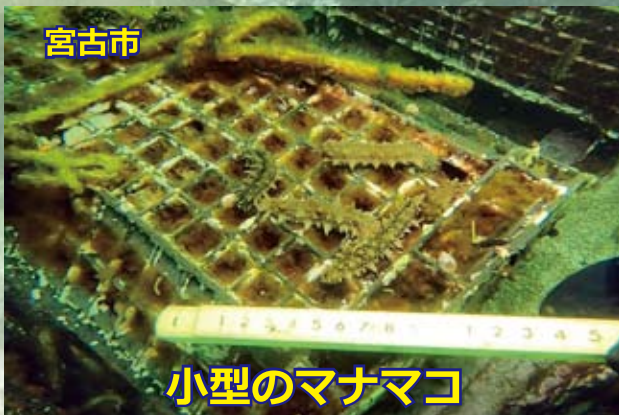
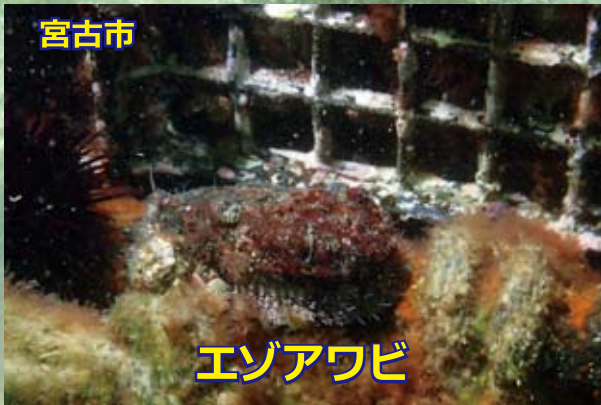
仮根を貝藻くんに絡ませていた

# ナマコ・アワビの生息場としての効果を発揮

岩手県で実施した調査では、ナマコやアワビの生息場として貝藻くんが効果を発揮していました。



とくに宮古市や陸前高田市の漁港内では、放流されたナマコ種苗が貝殻ケースで多く確認され、貝藻くんが放流のナマコの受け皿となることが改めてわかりました。



# 稚ダコ・幼魚の隠れ場としての効果



岡山県玉野市の沿岸域に設置された貝藻くんを対象に、潜水目視や引き上げによる生物調査を行ったところ、近年漁獲の減少が著しいマダコの子供やカサゴ、アイナメの幼魚など多様な生き物が出現しました。

玉野市では同様の調査を毎年継続して行っており、以前の調査においても同様の結果が得られています。こうしたことから、貝藻くんを設置した取り組みを継続していくことで、規模は小さくてもSDGsに貢献することができます。



ワカメなどが繁茂した貝藻くん



引き揚げ調査を実施



アイナメ幼魚



稚ダコとカサゴ幼魚



カサゴ幼魚など



稚ダコ



多様な動物が出現



タケノコメバル幼魚



新たな貝藻くんも設置

# シェルマットと組み合わせた埋没対策

貝藻くんは水中重量 30kg と小型軽量のブロックですが、脚部が出っ張っていることもあり、海底が軟らかい泥の場合、ベースコンクリートが埋まってしまふことで効果が弱まってしまうことがあります。

そんな場合には、天然素材繊維のネットに貝殻を詰めたシェルマットと併用することで埋没対策となると同時に、泥底にも貝殻による生物生息空間を創ることができます！！

## 石川県の事例

